

令和5年度 学校関係者評価報告書

学)井上学園 西門司幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・あいさつができるこどもを育てる。
- ・ひとやものを思いやるこどもに育てる。
- ・園児全体が100でなく、一人ひとりのこどもを100と見て、こどもが持つ能力を十分に引き出すことによって、自立できる子どもに育てる。

2.本年度重点的に取り組む目標・計画

令和6年度に繋げる教育を実践する。

3.評価項目の達成及び取り組み状況

1. 計画立案

令和5年度の現在も見通しの立たない感染症のため、令和4年度に協議された「学校関係者評価会議」の際に計画された「新型コロナウイルス感染症」対策後における保育を新たに模索して行く事で決定した。その際、「コロナ後における新しい保育のあり方の2年目」について、充分討議研究した結果、決定した内容は、

- ① 「コロナ後における新しい保育のあり方2年目」において、従前の保育（行事等）を再開するに当たり、新種の感染症や、従来からの感染症を見ながら令和6年度「保育」を推進する。
- ② 従前の検温や消毒は社会状況に照らし合わせながら実施の有無を決定する。
- ③ 制限解除後は園バス送迎と昼食を開始。但し、毎日検温とマスク装着・園内では必ず消毒作業。
- ④ 行事は運動会、夏期保育A、秋の遠足、生活発表会、作品展、お別れ遠足は予定通り行なう。
- ⑤ 夏期保育C、プール遊び、お泊り保育、バザー展は中止する。
- ⑥ 卒園式、入園式は状況に応じた対応をとる。
- ⑦ 基本は手洗い、うがい、消毒とマスクの常時装着。

以上の7項目で中でも、作品展は少し規模を小さめにする傍ら、創作活動と体育活動に重点を置き、絵画教室、体操教室及びECC英会話教室は例年と同じだけの回数を全うする。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

4年目に入った新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の措置下の「新しい保育の形」の中で予定されていた、④は全て実施され、また令和5年の3学期のお別れ遠足を条件付きで、昨年同様にも実施できたり、少しずつ社会状況と感染状態が比例して、4年前の保育に戻りつつある事を嬉しく思います。そして、令和5年の保育も以前の様に「公開保育」が観られたらと思います。

5. 今後取り組む課題

『本年度実施した、3種3校による取り組みは、各校の、特に、小中学校との日程調整が困難である事と、上位校にはもっと、『目的』や『意味』や『効果』について深く吟味していく必要性を内包する。』と、提示していた。昨年課題を挙げたが、本年度こそ上記の内容を基題に軌道修正したいと考察する。』と、昨年、課題を挙げそして、本年度は、西門司小学校の5年1組と、年5回の幼小交流を予定していたが、連携校の事前申請の伺いの手続きを踏まず、2回目の交流で突然、小学校教諭の自己都合で中途中止となり、中途半端に終わった。

また、幼小連携校の西門司小学校に加えて、以前より交流のあった緑丘中学校・柳西中学校・戸ノ上中学校とは、令和5年度の「保育・職場体験及び中学校家庭科の単元「保育」の実践授業の再開」の会議を学校長とそれぞれ行なったが、校内の状況等で、実施予定校と躊躇校とモラトリアム校の3種に分かれた対応となったが、各校とも実際実施に至らず、想定外の2年連続の各校からの連携待ちとなった点。

6. 学校を取り組む課題

「まずは、平成30年度のような状態に戻し、今まで通りの社会、本来の「教育」を推進していきたいと考察する。また、内閣府が発出した、令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症を医療区分第5種に移行した事を踏まえ、前述計画の通り平成30年当時の教育・保育に戻ることとする。」という令和6年度の課題同様に、新たに引き続き連携校の啓蒙に務める。

7. 財務

公認会計により適正であると認められている。